

CONTENTS

特集

形成外科 先天性疾患

～より良い未来のために今できること～

医療連携室からのお知らせ

編集後記



特集

形成外科 先天性疾患

～より良い未来のために今できること～

小児形成外科分野指導医紹介



科長
うえだ こういち
上田 晃一



医長
ぬり たかし
塗 隆志



ひろ た ゆか
廣田 友香



いわなが ひろゆき
岩永 紘征

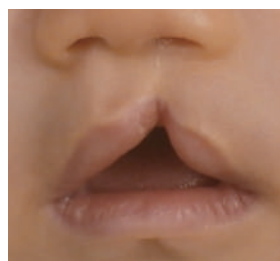
形成外科で扱う疾患は主に体表の異常を伴うため、患者さんのご両親が初めて気づかれることもしばしばあります。また、その領域は頭の先から足の先に渡るため、多種多様です。我々形成外科医はそのような疾患で悩む患者さんの、少しでもより良い未来のために最善を尽くします。

唇裂

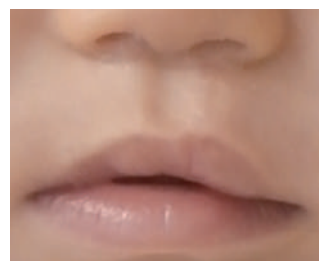
出生前に唇裂・口蓋裂と診断された場合、出生前診察にて唇裂・口蓋裂の治療方法について十分な時間をかけて説明し、ご両親の不安を軽減します。生後3か月で唇裂一次手術（口唇の裂を閉鎖する手術）を行います。この手術によって口唇は左右連続した形態となり、十分な哺乳が可能となります。1歳から2歳の間に口蓋裂を閉鎖する手術を行います。この頃から口唇裂外来専属の言語療法士により、言語の発達について、診察および指導を行います。外鼻の変形に対して、就学前に形態を改善し、8～9歳頃に顎裂部分に腸骨を移植する手術を行います。一連の治療終了後も傷跡など、機能面および整容的に満足が得られるまで治療を行います。大阪医科大学形成外科では創設当時から、言語療法士を招いて唇裂・口蓋裂外来を開設し、これまで多くの患者さん

を治療してまいりました。特に唇裂による外鼻の変形に対する修正法として世界的に有名な Reverse Uテクニックは先代の田嶋教授により開発され、大阪医科大学で数多くの手術実績を重ねて、今では世界で広く取り入れられている手術方法です。

唇裂・口蓋裂の患者さんは月曜日の専門外来（上田）までご紹介ください。



術前



術後10ヶ月

眼瞼下垂

眼瞼下垂症には、大きく分けて後天性眼瞼下垂症と先天性眼瞼下垂症があります。後天性眼瞼下垂症の場合は主に挙筋腱膜が、伸びて薄くなってしまふ・外れてしまうことで生じることが多いためこの挙筋腱膜とはずれてしまった瞼板を再固定します。先天性眼瞼下垂症の場合には、生まれつき眼を開ける眼瞼挙筋という筋肉の形成不全が原因となります。

症状が強い場合には筋膜を用いて瞼と前頭筋を連動させることで瞼を挙上できるようになります。先天性眼瞼下垂症の重症のものは、視力障害を引き起こす可能性もあるので、早期の手術が必要となることがあります。後天性眼瞼下垂症、先天性眼瞼下垂症ともに当科では多くの患者さんにこれまで治療を行ってまいりました。

手足の先天異常

手足の先天異常には多指(趾)、合指(趾)症、裂手、巨指(趾)症など様々な形態異常があります。手足の先天異常は整容面だけではなく、機能面での改善も重要であり、両面に配慮した治療を当科では心がけております。また皮膚成分のみの形態異常から複雑な骨性合指(趾)症まで当科では対応しており、最新の画像診断技術を駆使することで複雑な指の血管走行異常にも対応した手術を行うことが可能となっています。裂手、巨趾症など難しい症例は、手外科専門医の上田(月曜日)まで紹介ください。



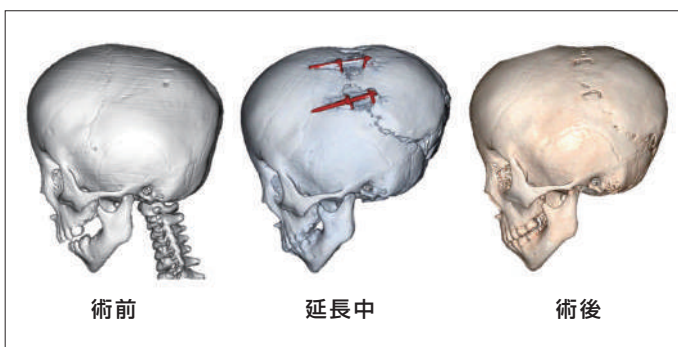
合指術前

合指術後

頭蓋縫合早期癒合

頭蓋縫合が早期癒合すると頭蓋変形や頭蓋内圧亢進が起こり、発達や機能の障害につながる可能性があります。また、顔面の変形などが起こるものもあります。

手術は脳神経外科と合同で、頭蓋形態の改善及び頭蓋内圧亢進の改善を目的に行います。癒合部位や患児の月齢などにより癒合縫合部切除や骨延長法、頭蓋形成術などを選択しますが、早期であれば低侵襲な治療法を選択できる可能性があります。頭の形などでお困りの際はご紹介ください。



頭蓋骨の延長を行った症例

耳の先天異常

耳の形態に関する先天異常は副耳や耳瘻孔などの軽度なものから、小耳症のように高度な変形を伴うものまで様々です。耳の形態異常は生下時から明らかなことが多く、両親が気付かれる例も少なくありません。一部の副耳や埋没耳などは生下時に糸による結紮や、矯正具を装着することで手術を行うことなく治療が可能です。また、生後早期に専門外来を受診することで侵襲の少ない方法で治療を行うことも可能な場合があります。一方で小耳症などの高度な変形は手術加療が必要となりますが、耳介は複雑な構造をしており、再建

手術には十分な経験が必要です。大阪医科大学形成外科では以前より小耳症専門外来を開設し、小耳症およびその他の耳介形成異常の診療に当たっております。



矯正具(3ヶ月)を用いた保存治療

埋没耳



肋軟骨フレームを用いた耳介再建

小耳症



副耳の切除後

副耳

形成外科 診療担当表

●は第〇週 令和2年9月1日現在

	月	火	水	木	金	土(第1・3・5)
初診	上田(唇裂・手) 岩永(頭蓋)		塗(耳)	4 久徳(頭蓋)	廣田(唇裂)	3 塗 5 岩永

医療連携室からのお知らせ

2021年1月11日(月・祝日)開院します

ここ数年、ハッピーマンデーにより月曜日が祝日になることが年間に数日あり、月曜日の外来診療、入退院手続き、手術等に支障が生じることが懸念されております。つきましては、当院では2021年1月11日(月・祝日)は開院し、外来診療、各種検査、手術等を行います。

これからもなお一層患者さんに適切な医療と環境を提供できるように努力する所存でございますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2021年1月11日(月・祝日)
成人の日(ハッピーマンデー)

開院(通常の診療体制)

「第8回紹介医療機関と大阪医科大学病院との連携強化のつどい」、「連携病院長会総会」開催中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年開催しておりました「紹介医療機関と大阪医科大学病院との連携強化のつどい」、「連携病院長会総会」は開催中止とさせていただきます。

市民公開講座開催中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前回お知らせしておりました9/19(土)、11/7(土)、12/19(土)の市民公開講座は開催中止とさせていただきます。

広域医療連携センター ホームページリニューアル

内容の充実を図るとともに、わかりやすく情報を発信して参ります。各室のページを順次リニューアル予定です。今回は入退院支援室の「入院までの主な流れ」を掲載しました。

- 病院ホームページトップ→部門のご案内→広域医療連携センター

http://hospital.osaka-med.ac.jp/dept_list/medical_consulting/index.html



編集
後記

顔の見える連携は制限がある状況が続いています。だからこそ、紙の広報物本誌MIZUKIの役割が今重要ではないかと考えながら今号の編集を進めてまいりました。MIZUKIが連携の一助となれば幸いです。これからも、本院の最新の情報をよりわかりやすく発信する紙面づくりを行っていきますのでよろしくお願いします。(K.T.)



医療連携室ご利用のご案内

医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科大学附属病院広域医療連携センター医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

● TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308

● TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)



送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください